

# 地名の由来と史跡と文化財

(姉崎地区編)



ふるれんネット・いちまる館でダウンロードできます

姉崎 姉崎神社

上総の国いちはらの歴史を知る会

(ふるさと市原をつなぐ連絡会会員)

令和3年7月編集・製作

## まえがき

人類は、今から700万年前にアフリカ大陸でサル類（チンパンジー）から枝分かれして「二足歩行の人類」となった。その後徐々に進化し約10万年前に一部の人類がアフリカを出ていくつかの人種に変化し大陸に住み着きました。旧石器時代（先土器時代・無土器時代）～紀元前1万4千年前頃、我が国にも大陸から渡り来て住み着いたと思われます。その頃の日本列島はユーラシア大陸と地続きであり、彼らはマンモスやナウマン象、大角鹿などの大型動物を追いかけて日本列島にやってきた。食料調達には、主に狩猟や採取を行い、石を打ち砕いて造られた打製石器を使用した。食器などはなかった。

私たちの住みます「いちはら」にも人が住み始めて3万年の歳月が過ぎ、いくつかの大規模な集落が出来てきました。そして弥生時代になると大陸から稲作が持ち込まれ、肥沃な土地では稲作が行われるようになり、権力者による統治が始まった頃と思われます。その中で、大変興味深い説があります。縄文時代の頃に、日本列島に太平洋南方より現ポリネシア語（マオリ語）を話す民族が渡来し、住み着いた人たちが初めて地名を付けたという説です。それらの古い時代に付けられた今とあまり変わらない発音で、今も多く使われています。その中でも「古事記」や「日本書紀」などの古典や日本語の中にも、多くの現ポリネシア語源の言葉を見ることができますが、文字で表すものはありませんでした。

しかし弥生時代になると朝鮮半島より渡来した人により漢字が伝わって来て、今まで言葉で伝えられていた呼び方に、適当な漢字を当てはめたものです。例えば、日本の象徴の山「富士山」は、マオリ語では「フチ（HUTI）」「引き上げられた山、または釣り上げられた山」という意味となります。そして、浅間神社は熊野神社と並び最古の部類の神社と思われますが、富士山の神を祀る「式内富知（ふち）神社」が最も古い神社と思われます。

縄文時代には、争いごとは少なかったと言われていますが、水稻耕作が始まった弥生時代になると「定住民」が増えることにより、土地の利権争いが起き、古くから住んでいた縄文人は弥生人に圧倒されることになった。但し、古くからあった地名すべてが「現ポリネシア語（マオリ語）」という訳ではありません。

北海道には「アイヌ民族」のアイヌ語があり、沖縄には「琉球民族」が話す「琉球語」が存在する。

また、それぞれの地方には「方言」があり、その地方特有の言葉があります。

参考ですが、古来より「サ」が付いた名には「神様」に関係したものが多く見られます。

例えば、神社の敷地内は「境内（ケイダイ）」という聖域と一般の地を分ける「さかいめ」があり、神様が山から「さと（里）」に下ってくる道を「さか（坂）」と言います。また、祀りの際の神様の貴賓席を「さじき」と呼び、庶民は地面の芝に座ったので「芝居」という言葉が生まれたと言われています。

今回は、上総国市原郡内の中央部に位置します「姉崎地区」の地名の由来と、その地にある史跡や文化財などを紹介します。



## 市原郡内の姉崎地区の地名の由来

### 千葉県の名の由来

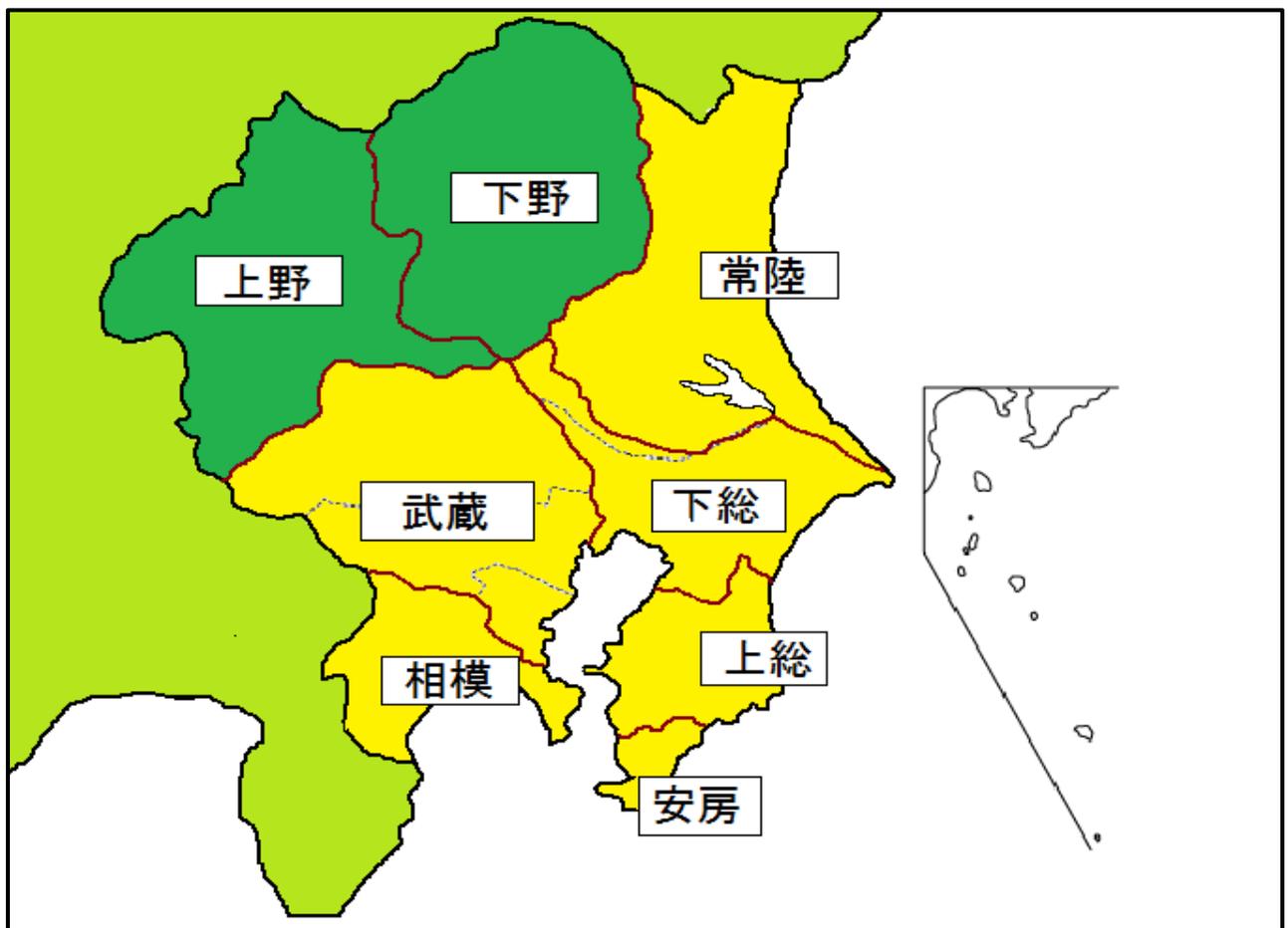
千葉県は江戸期までは総国（ふさのくに）と呼ばれており、茨城県南西部の一部と埼玉県東部の一部も含まれていました。この地域は7世紀後半の令制国の建置により、上総国と下総国が成立しその後養老2年（718年）に上総国から4郡が分かれ安房国が誕生した。

「総」の語源は、「古語拾遺」によると、「天富命（あまとみのみこと）」が安房国から齊部氏を率いて東上し、麻を植えたところ、良い麻が生えたので、総（麻）の国としたという説と、「風土記逸分」によると「総」とは木の枝を言い、昔この国に大きな数百丈のクスの木が生えていたが、大凶事との占いが出たので切り倒したところ、南に倒れたので、上の枝を「上総」と言い、下の枝を「下総」と言ったと記されているが、いずれも根拠が弱く、他にも「塞ぐ」からで「山などが周囲にある土地」や「ふし」の転訛で「高い所」の意味する説などがあるが、現在では朝廷の都に近いほうが上であり「上総」と付けられたという説が正しいと考えられる。

なお、「ふさ」はマオリ語で「フ・タ」で、「浸食された丘陵がある地域」の転訛と訳します。

「和名抄」に、下総国相馬郡布佐（ふさ）郷があり、現我孫子市東端の布佐の地域と思われる。上総国には、市原（国府所在地）・海上・畔蒜（あびる）・望陀（ぼうだ）・周准（すえ）・天羽・夷隅・埴生・長柄・山辺・武射の11郡がある。

下総国には、葛飾・千葉・印旛・埴生・匝瑳・海上・香取・相馬・猿島（さしま）・結城・豊田の11郡が、安房国には、平群（へぐり）安房・朝夷（あさひな）・長狭の4郡で国造りがされた。市原郡は「伊知波良」と書き、中世には市西郡と市東郡に別れ、山田郡も郡域内にあったと思われます。国府の所在郡でもあり郡内には、海部（あま）郷・市原郷・湿津郷・江田郷・菊麻郷・山田郷の6郷があった。江戸期には、このほかに、海北郷・佐是郷など、旧海上郡域も併合された。



# 市原市の地区別地図

020/9/26

行政区-scaled.jpg (1829×2560)



## 市原郡内地名の由来と神社、仏閣、史跡、文化財の紹介

※ アンダーライン部は、古代マオリ語（現ポリネシア語）での表現を日本語に転化したもの。

### 上総国市原郡の6郷

#### 1・海部郷（あまのごう）

平安期にあった郷で、高山寺本の訓は「安万」東急本は「阿万」と呼ばれており、海士有木に比定されている。漁業、航海を中心とした職業的品部に由来する地名。

#### 2・市原郷（いちはらごう）

平安期にあった郷で、市原・能満・門前・郡本付近に比定されている。地名の「イチ」は集落の意味、または「稜威」（いつ）の転嫁で美称か。櫟（いちい）の繁茂する原野の意味とする説もある。

※藤井は、万治2年（1659年）に郡本より分村したのと、山田橋は元は山田郷に属していたので、市原郷には含まれなかった。

#### 3・湿津郷（うるつごう）

平安期にあった郷で、高山寺本の訓は「宇流比豆」、東急本では「宇留比豆」。市原市潤井戸付近に比定される。地名の由来は、「ウルヒ（湿）・ツ（場所）」と考えられる。村田川の上流で、豊富な涌泉があることから命名された地名と思われる。

#### 4・江田郷（えだごう）

奈良期にあった郷で、高山寺本・東急本ともに訓は「衣多」。市原市吉沢付近は古くは江田郷と称したと伝えられ、当郷の比定と思われる。他に、市原市八幡付や市原市江古田などを含む養老川上流右岸の広大な地域を郷域としている。

#### 5・菊麻郷（くくまごう）

平安期にあった郷で、東急本では「菓麻」と書く。訓は、高柳寺本・東急本ともに（久々万）。

市原市菊間付近に比定されている。地名の由来は、「くくまった（包み込まれたような）・地」の意味

#### 6・山田豪（やまだごう）

平安期にあった郷で、東急本の訓は「夜万多」。市原市山田付近に比定されている。

地名の由来は、「山を開いて田を作ったところ」の意味か、「山間の田」あるいは「山処（やまど）」の転嫁で、「山のある処」とも考えられる。

姉崎地区（姉崎・天羽田・不入斗・片又木・椎津・立野・豊成・畑木・深代・迎田）

※ 有秋台・桜台・泉台・青葉台等の新興住宅地については、旧地番を参照下さい。

## 概説

古くは養老川以南の地は上海上国造（カミウナカミクニノミヤツコ）が支配しており、今日の姉崎付近はその中心であったと言われている。この付近一帯には巨大な古墳群があり、かつての国造の権勢を示している。

「あねさき」の地名は、姉崎神社に由来するようで、870年頃には「姉前」と称し、877年頃に「姉前神社」は正五位下を授けられている。

椎津城は、武田信政が峻嶮な要害地で外敵に対して守りやすいという事や、交通、産業面での地理的条件が真里谷城（木更津市富木田）よりも良かったことから、また一族間の勢力関係もあって、椎津の地に城を築いたと言われる。

江戸時代初期には、徳川家康の孫、松平氏が2代（忠昌・直政）にわたりこの地を領したが、その後は幕府直轄領あるいは佐貫藩領、請西藩領、三河西大平藩領、旗本知行としての道を歩んだ。

また江戸時代末期には、水野氏が安房国北条氏から封ぜられ、椎津城東方の高所（正坊山）に「鶴牧陣屋」（鶴牧城と呼ばれていた）を置き、3代（忠詔・忠実・忠順）にわたり、鶴牧藩1万5千石を治め、明治維新を迎えている。今でも茶の水・外郭・御霊台・竹の腰・要害道など城下町特有の地名が残っている。

「つるまき」と称するのは、文政10年（1827年）11月26日からで、水野氏の江戸藩邸が「早稲田鶴牧町」にあった事にちなむ。

現在陣屋跡は姉崎小学校の敷地になっているが、往時はこの周辺に藩士邸が軒を連ね、文芸の教養を身につけた武士たちが起居していたことで、経済や文化方面に多くの影響を及ぼしている。

「文道・武道は天地陰陽、車の両輪、鳥の両翼の如く偏廃すべからず。土たるもの兼学せざるべからず」と藩主の布達にもあるように「藩校 修来館」では、漢字を授けるなど武道同様、文道も重視していた。約30年の歳月を要し完結を見た「鶴牧藩史記評林」はその一例であろう。

1867年の大政奉還の時に地方は府藩県に分けられたが、各藩は従来通り旧藩主による統治がなされ、鶴牧藩も同様であった。

明治4年（1871年）7月14日廃藩置県の詔書が発せられ、一時宮谷県に属したが、その後木更津県の管轄となった。同6年、大小区分画の際に姉崎、深城、豊成、立野、不入斗、片又木、迎田、畑木の各村はいずれも第5大区1小区に編入され、11年郡区町村編制法施行の時には、姉崎は椎津と、深城は不入斗、迎田、畑木と、片又木は立野、豊成とそれぞれ村連合を結成した。同17年戸長役場所轄区域更定の際に姉崎、椎津の2村と他の7村はそれぞれ別の所轄区域に属し、また学区も二つに分かれていた。しかし、この9村はいずれも農業を生業とし人情風俗を同じくし、共通の利害によって結ばれていたばかりではなく、用水施設の利害関係なども共同であった為、明治22年の町村制施行に基ずき合併し、新村を形成することとなった。町名は、旧鶴牧藩の所有地に因り「鶴牧」とされた。その後、明治25年1月2日の町村制施行と共に名称を由緒のある「姉崎」に変更した。

昭和28年10月の町村合併促進法の施行に伴い、同30年3月五井の一部「今津朝山・柏原・白塚」を編入している。



姉崎 (あねさき) 神社・寺院・史跡文化財・城址 姉崎神社・保食神社・稲荷神社・白幡神社  
 明神社・菅原神社・天照神社・最頂寺(浄土宗)・長遠寺・妙経寺・宝蔵寺(顕本法華宗)  
 円能寺(顕本法華宗)・弘経寺(浄土真宗)・天理教向志満文教所・姉崎天神山古墳・鶴窪古墳  
 二子塚古墳・六孫王原古墳・姉崎台城址

姉ヶ崎ともいう。南北朝期は姉崎保。江戸期は姉ヶ崎村と呼ばれた。

地名の由来は、志那戸弁命(姉崎神社祭神)と志那都比古命(島穴神社祭神)の姉弟神(一説では夫婦神)がおり、姉神が先に当地に来て弟神を待ったので姉前(あねさき)と呼んだという伝説がある。

他に、「はに(埴輪)・さき(やまの先端)」の転訛で、粘土質丘陵の先という意味。

姉崎神社 (あねさきじんじゃ)

所在地 市原市姉崎2278番地  
 創建時期 景行40年(110年)  
 祭神 志那斗弁命  
 相殿 日本武尊・天兒屋根命  
 塞三柱神・大雀命  
 神紋 五七桐  
 宮司 海上 健  
 由緒・伝説 式内社、旧県社。男千木。通称明神様。

姉崎神社の拝殿と茅の輪



日本武尊が東征の際、速水の海で嵐に遭い、お妃の弟橘姫の犠牲により無事に上総の地に着かれた。そして、この宮山台において妃を偲び、かつ航行安全を祈願し、風神の志那戸弁命を祀ったのが創始と伝えられている。また、景行天皇が東巡の際に日本武尊を合祀。忍立化多比命がこの地に降り天兒屋根命・塞神三柱命を合祀。

さらに履中天皇4年に忍立化多比命の五世孫の忍兼命が大雀命を合祀。天慶3年(940年)には、将門の乱平定の祈願が行われ、その時朱雀天皇が剣一振り(一説は扇)を奉納。治承4年(1180年)には、源頼朝が平家追討の祈願をしており、秋の祭礼で流鏝馬の神事が行われる。

慶長2年(1597年)、および同6年に社殿を造営し、元和4年(1618年)に松平直政がこの地に封せられ、神領35石を寄進した。明治6年(1873年)木更津県が誕生するに及んで県社に列せられた。当社は、上海上国造家の氏神とも考えられている。島穴神社の祭神・志那都比古命の姉とも妻とも言われ、夫婦説に基づく伝説には、松禁忌があり(妻神が夫神に待たされた為に社殿に「松」は植えない)、姉弟説に基づく伝説では、当地で待ち合わせをし、姉神が先に着いたので「姉前」という地名になったという。

また、頼朝の子・実朝が疱瘡に罹った際、祈願した処平癒したことから「疱瘡神」としても敬われている。境内に東照宮(日光御同神)があり、元和4年(1618年)に領主・松平直政は社領35石を寄進した際に造営。

船橋市の二宮神社の伝承では藤原師経の姉が漂着した地と言われ、その為「下総の七年祭り」では、姉神として往時は当神社の神輿が船で運ばれて参加していたという。現在も大祭りの朝の式典に姉崎神社が参列するなど、両社の交流は続いている。

境内に水祖神社(岡象女命)・龍宮神社(豊玉姫命)・金刀比羅大権現(御社2号古墳上に鎮座)・御嶽山大神・三笠山大神・八海山大神・巖島神社(市杵嶋姫命)・菅原神社(菅原道真)・琴平神社(大物主命)・富士塚の浅間神社(御社3号古墳上に鎮座・木花開耶姫命)

大山祇神社（御社古墳上に鎮座・大山祇神）東照宮（徳川家康）、その他青葉台造成に伴い遷座された石祠などがある。

末社には、日月神社（日神・月神）、稲荷神社（倉稲魂命）、竈神社（奥津比古命・奥津比売命・火産靈命）、大国主神社（大国主命）、神武天皇神（神倭磐余彦命）子安神社（木花咲耶姫命）、奥宮神社（伊弉諾命・伊弉册命）、大宮神社（国常立命）、日枝神社（大山咋命）石擬神社（石擬姥命）、雨降神社（大山津見命）、栗嶋神社（少彦名命）、白鳥神社

（日本武尊）新波々木神社（句句迺馳命）、第六天社（面足尊命・惶根尊）、伊勢神宮遥拝所がある。近くに釈迦山古墳（前方後円墳）がある。



参道入り口の第一鳥居と扁額



南門側の鳥居と山門と扁額



南門の裏側と扁額



十五社の祠を祀る社殿



境内にある水手舎



本殿と拝殿が一体の社殿



本殿内部に祀られた祭壇



東照宮を祀った社殿



菅原神社の鳥居と社殿



富士塚を祀る浅間神社



琴平神社の祠と社



巖島神社の祠と社

稲荷大明神 (いなりだいまいようじん)・保食神社 (うけもちじんじゃ)

所在地 市原市姉崎68番地  
 創建時期 慶長年間(1596年~1615年)  
 祭神 倉稻魂命  
 宮司 海上 健  
 由緒・伝説 慶長年間に姉崎村川崎地区の漁・農家が共に鎮守の社として奉斎したが、明治44年(1911年)に焼失した。

稲荷大明神の鳥居と本殿



稲荷神社のトレードマーク狐様



本殿の内部の祭壇

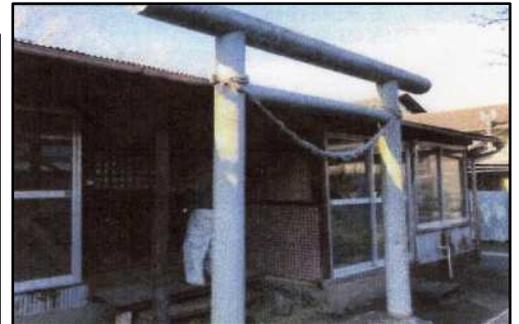


奉納された石の手水鉢

稲荷神社 (いなりじんじゃ)

所在地 市原市姉崎344番地  
 創建時期 明治3年(1870年)  
 祭神 倉稻魂命  
 宮司 海上 健  
 由緒・伝説 明治3年に旧鶴牧藩主の勧請。士族の守護神であった。

稲荷神社の石祠と社



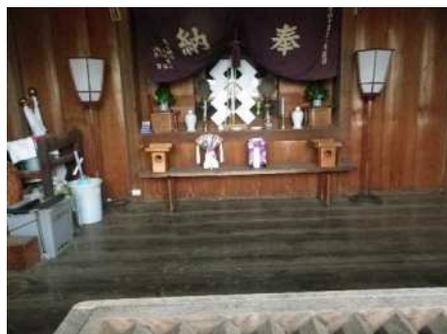
白幡神社 (しらはたじんじゃ)

所在地 市原市姉崎1234番地  
 創建時期 治承年間(1177年~1181年)  
 祭神 誉田別命・(大鷦鷯命とも)  
 宮司 海上 健  
 由緒・伝説 治承年間に創建されたという。由緒・伝説は不詳

白幡神社の本殿建物



神社入口の鳥居と奥に本殿



本殿内部に祭壇が祀られる



本殿左脇に祀られる社

神明神社 (しんめいじんじゃ)

所在地 市原市姉崎1998番地  
創建時期 元和元年(1615年)  
祭神 大日靈貴命・倉稻魂命・大山咋命  
宮司 海上 健  
由緒・伝説 創建時期・由緒伝説不詳

神明神社の本殿建物



境内入口の鳥居と奥に本殿



本殿の正面入口



境内に奉納されている水手鉢

菅原神社 (すがわらじんじゃ)

所在地 市原市姉崎2489番地  
創建時期 天慶3年(940年)に奉斎  
祭神 菅原 道真  
宮司 海上 健  
由緒・伝説 天慶3年、姉崎神社に将門調伏の勅願があった際、勅使が奉斎した。天神山古墳の名も当神社に由来する。

菅原神社の本殿建物



天神山古墳の脇に立つ本殿



本殿の扁額には天満宮の文字



天神山古墳の墳頂ぶに立つ祠

日本三大怨霊  
のひとり  
菅原道真



無量山壽經院最頂寺 (さいちょうじ) 浄土宗

所在地 市原市姉崎44番地  
創建時期 天平年間と思われる  
本尊 不詳  
住職 秋本 慧耕  
由緒・伝説 文政3年21世・宗誉上人の記録による

最頂寺の本堂建物



と開山は行基菩薩と言われ、(増上寺史料集第6巻には「宗阿彌」とされている)、後に戦乱・自火等により大破無住として荒廃していた。慶長年間に至り、雄譽靈上人房州地方

化益の途上、供養僧・蓮乗上人を再建の為この地に残し、上総国市原郡姉崎村・高石源左エ門を開基檀那として、慶長4年に再建改宗し、蓮乗上人を中興開山としたと伝えられる。境内については、門前表口三十間・同裏行二十四間・表口四十四間・裏行五十八間・大門通り表口横幅二間四尺・大門長さ十九間等の記録がある。また、明治3年の記録によると境内364坪と記録されている。

また本堂内には、いつ頃どうして信仰の対象になったか不明だが、「おくまん様」と呼ばれる古墳時代の男性人物埴輪像が祀られ、当寺秘仏とされており、元禄9年建立の諸願成就北向地蔵と合わせて檀信徒・近隣の夫人達が毎月参集し民俗信仰行事念仏供養を続けている。(千葉県浄土宗寺院誌より)



最頂寺の境内通路の地蔵群



最頂寺の本堂正面入口



境内に祀られる北向き地蔵

慶傳山長遠寺 (けいでんさんちょうおんじ) 顕本法華宗

所在地 市原市姉崎115番地  
創建時期 文禄年間(1592年~1596年)  
本尊 不詳  
住職 橘 無我  
由緒・伝説 長遠寺は、北条氏直の家臣だった平山蔵人頭重代が、小田原城落城後当地に隠棲し、平山家代々で進行していた日蓮上人像を奉安して創建した言われている。



長遠寺の本堂建物と十三段宝塔



長遠寺の境内入口の山門



本堂正面入り口と焼香台



長遠寺の本堂内の祭壇



境内の日什大正師の銅像



境内に祀られる聖観世音菩薩像



境内に建てられた鐘楼と釣鐘

一乗山妙経寺 (いちじょうさんみょうきょうじ) 顕本法華宗

所在地 市原市姉崎453番地

創建時期 寛正元年(1406年)に創建。

本尊 不詳

住職 橘 無我

由緒・伝説 妙経寺は、日暁上人を開基として寛正元年に創建された。天正19年(1591年)には徳川家康より寺領10石の御朱印状を拝領し、境内に仏堂一字並びに泉乗・浄泉・戒行一乗・常教。見如・浄如・正用・泉光・本壽など塔頭10坊、数多くの末寺を擁する中本寺格だったと言われる。見如坊は、明治9年に焼失し、常教坊に合併されている。姉ヶ崎駅前の区画整理事業に伴い、平成11年寺観を一新した。水戸光圀の「甲寅紀行」にも出て来る寺で、境内に「義僕市兵衛碑や孝子五郎の墓や、元和8年(1622年)5月18日銘の五輪塔がある。



妙経寺の参道と本堂建物



妙経寺の境内入口の山門



本堂正面入口の一乗山の扁額



本堂内に祀られた祭壇



寺院の縁起と記念碑



開祖日暁上人の石像



境内に建てられた鐘楼堂

寶珠山宝蔵寺 (ほうじゅさんほうぞうじ) 顕本法華宗

所在地 市原市姉崎2462番地

創建時期 不詳

本尊 不詳

住職 窪田 哲英

由緒・伝説 創建時期・由緒等不詳

宝蔵寺の本堂建物



宝蔵寺境内入口の山門の石柱



境内に祀られる日蓮上人像



江戸時代に奉納された水手鉢

円能寺 (えんのうじ) 顕本法華宗

所在地 市原市姉崎2452番地

創建時期 不詳

本尊 不詳

住職 前田 明則

由緒・伝説 創建時期・由緒等不詳

円能寺の本堂建物



境内に祀られる石仏



江戸期の墓石が祀られる

報徳山弘教寺 (ほうとくさんぐきょうじ) 浄土真宗

所在地 市原市姉崎638番地10  
 創建時期 近年  
 本尊 不詳  
 住職 小林 覚城  
 由緒・伝説 近年開創された寺院で、特にない。

弘教寺の本堂建物



本堂を左側から写す



本堂を右側からの風景



弘教門徒会館内の齋場と祭壇

### 上海上国造の姉崎地域古墳群

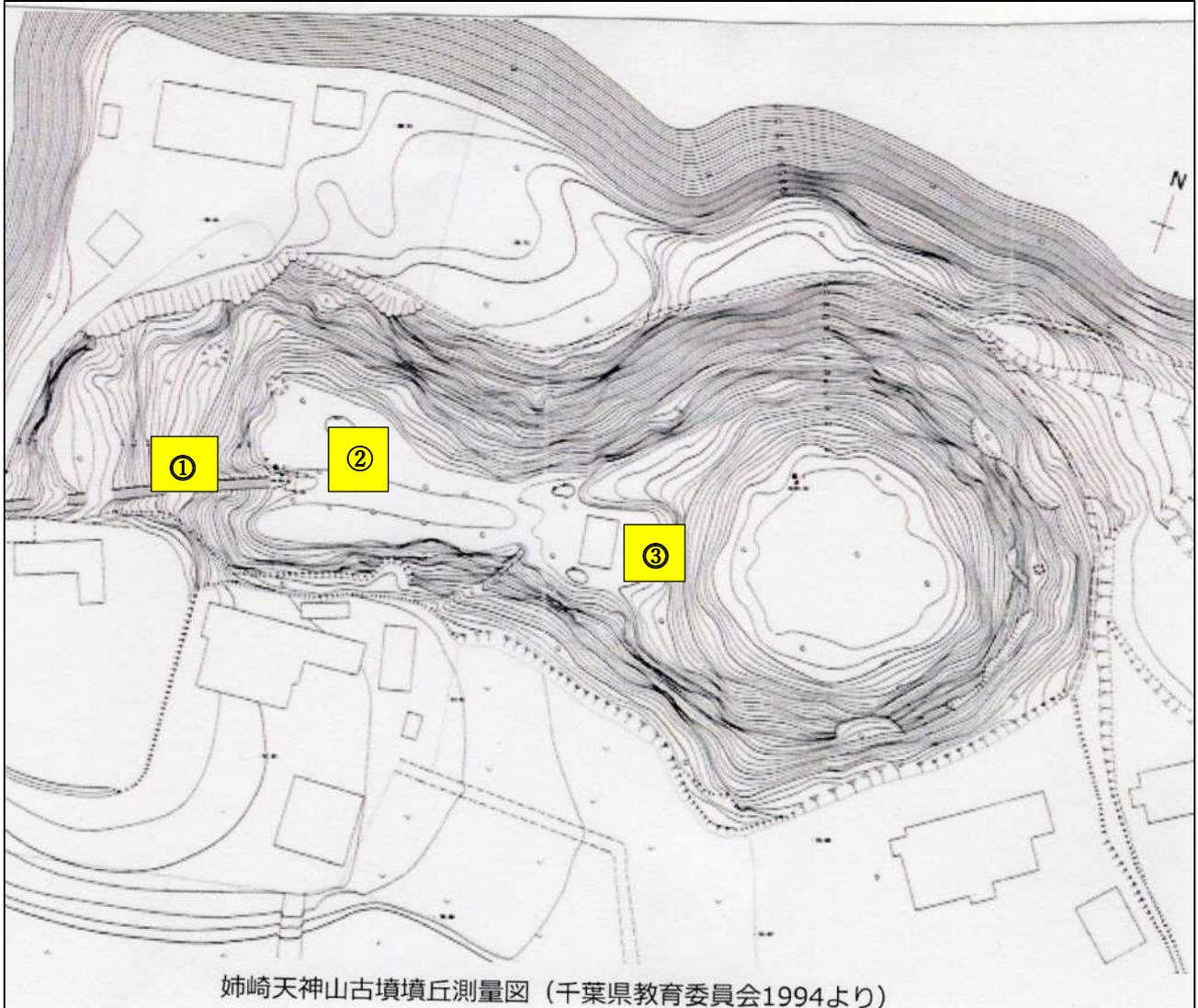
養老川流域の大部分が上海上国の領域と思われる。成務天皇の頃に「忍立比多比命」が国造に定められた養老川流域の南地域を支配していた。その領域は、南は南総地域から高滝地域に及び、東は養老川周辺、西は君津群境、北は東京湾に及ぶ広範囲でした。姉崎地区には内裏塚古墳群にも匹敵する大型古墳群の「姉崎古墳群」が築造されており、上海上国造の首長クラスの古墳が継続的に築かれた。

最も古く築かれたものは「姉崎天神山古墳」と考えられ、以後「釈迦山古墳」「二子塚古墳」「山王山古墳」「鶴窪古墳」「堰頭古墳」「六孫王原古墳」へと、4世紀から7世紀まで続く王家の谷とも言える地域です。ここでは、県及び市指定文化財の「姉崎天神山古墳」と「釈迦山古墳」「二子塚古墳」「六孫王原古墳」について紹介します。



## 姉崎天神山古墳（県指定文化財）

市原市姉崎にある古墳で、形状は前方後円墳です。姉崎古墳群を構成する古墳の一つで、築造時期は4世紀前半から中期頃と思われる。古墳の規模は、全長128mで、高さ14m（円墳部分）です。本古墳のくびれ部には、後世に建てられた菅原神社（天神社）が鎮座しており、この古墳の名称の由来となっています。姉崎古墳群では最大規模のもので、前方を西方に向け、墳丘拾遺では南側から東側にかけて周溝が廻らされている。発掘調査はされていないので、埋葬施設は不明で、埴輪などの遺物も得られていない。



姉崎天神山古墳墳丘測量図（千葉県教育委員会1994より）



天神山古墳説明板といちはら歴史遺産を示す標柱 ①



古墳北側に祀られる石祠 ②

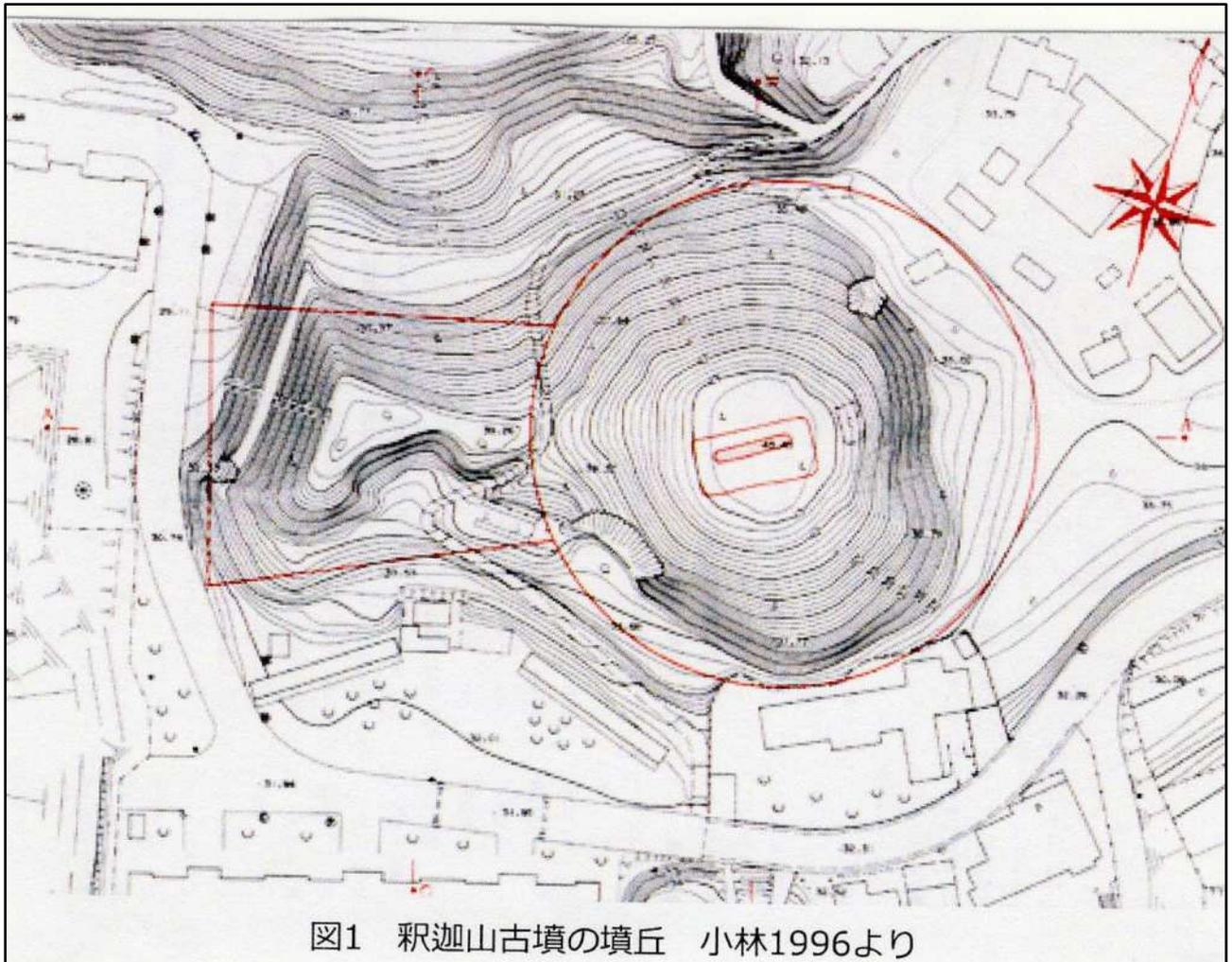


古墳くびれ部にある菅原神社③

### 釈迦山古墳（市原市指定文化財）

釈迦山古墳は、姉崎神社の南側の台地上に築かれた前方後円墳で、姉崎古墳群を構成する一基です。墳丘の全長は93mで、後円部の高さが12mに及び、市原を代表する阿縣古墳の一つです。

1995年に墳丘部の調査が行われ、埋葬施設が9、1m、幅1、6mの粘土廓であることが判明。調査は、墳丘表面を対象にしたものでしたが、埋葬施設周辺から蛇紋岩製の管玉7点や土器の高杯などが出土している。出土土器の形状は古墳時代前期中頃の特徴を示しているため、釈迦山古墳は約1630年前に築かれたと考えられる。古墳の出現期から古墳時代前期までは、台地の上に造られていたが、古墳時代中期になると海岸平野に降りてきた。その後、古墳時代後期になるとまた台地の奥に造られるようになる。



### 二子塚古墳（県指定文化財）

姉崎地区の平地部にある大型の前方後円墳です。遺跡地図の左下がりに数本見える筋が砂堆という地形で、その高まりを利用して築かれた古墳です。墳丘は三段築成で、推定114m、周溝を含めた全長は160mで、後円部高さ9、5m、前方部高さ8、5mです。1947年に国学院大学が行った発掘調査では、後円部の埋葬施設から、鏡3・勺玉8・管玉4・琥珀棗玉5・ガラス小玉300以上・直刀片2・鉄矛片1・甲冑片・金銅金具片・滑石製品（刀子形5・有孔円板2・白玉3・立花4）などが出土しています。前方部からは、直刀2・銀製耳飾り2・メノウ勺玉1・直弧文石枕1・鉄ヤジリ100以上・鉄矛かぶと片。馬具くつわ片が見つかりました。

また、墳丘の中段と下段に円筒埴輪列が確認されている。円筒埴輪列には、和泉式の高杯が出土したと報告されている。

# 二子塚古墳

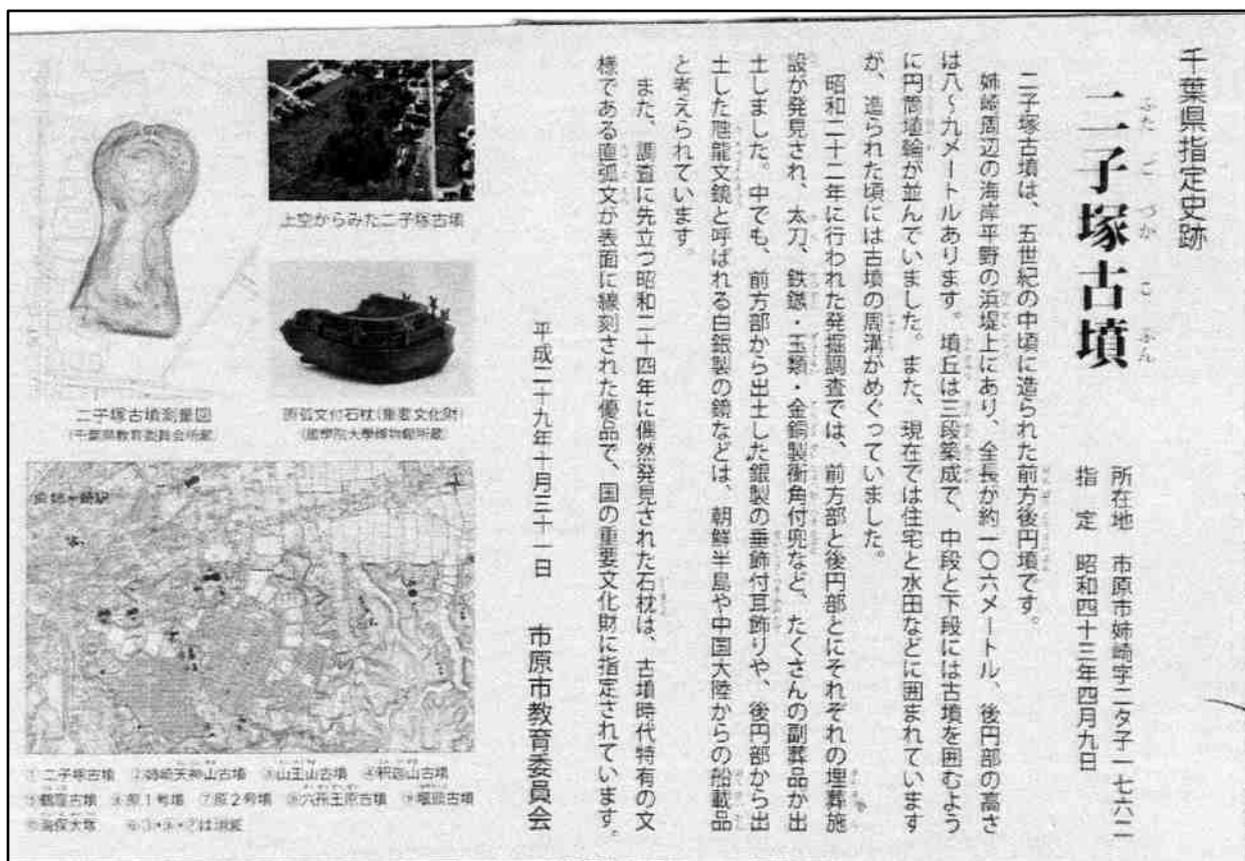
所在地 市原市姉崎字二太子一七六一  
指定 昭和四十三年四月九日

二子塚古墳は、五世紀の中頃に造られた前方後円墳です。

姉崎周辺の海岸平野の浜堤上にあり、全長が約一〇六メートル、後円部の高さは八・九メートルあります。墳丘は三段築成で、中段と下段には古墳を囲むように円筒埴輪が並んでいました。また、現在では住宅と水田などに囲まれています。造られた頃には古墳の周溝がめぐっていましたが、昭和二十二年に行われた発掘調査では、前方部と後円部とにそれぞれの埋葬施設が発見され、太刀・鉄鏝・玉類・金銅製衝角付兜など、たくさん副葬品が出土しました。中でも、前方部から出土した銀製の垂飾付耳飾りや、後円部から出土した肥前文鏡と呼ばれる白銀製の鏡などは、朝鮮半島や中国大陸からの舶載品と考えられています。

また、調査に先立つ昭和二十四年に偶然発見された石枕は、古墳時代特有の文様である直線文が表面に線刻された優品で、国の重要文化財に指定されています。

平成二十九年十月三十一日 市原市教育委員会



## 六孫王原古墳 (市原市指定文化財)

六孫王原古墳は、姉崎古墳群の中では最も新しい一群の7世紀後半築造で、墳丘全長45m、前方部幅25m、高さ1m、後方部幅26、8m、高さ2、5mの前方後方墳で、埋葬施設は横穴式石室(後方部南側)に造られた切石積です。後世の盗掘により大きく破壊されている。

副葬出土品は、鉄剣や刀子片、砥石、金銅製鏡板、金銅製留金具、須恵器大臺などがある。



## 姉崎台城跡

所在地 市原市姉崎字東原  
築城時期 天正年間と思われる  
築城主 椎津城主と思われる  
説明 姉崎台城は、県立姉崎高校の南西にそびえる比高30mほどの台地上にある「姉崎天神山古墳」地帯が、姉崎台城跡と言う。古墳は非常に高く土を盛られており、その周囲の土手も急峻になっている。その為、特に加工を施さなくてもこのまま、ちょっとした砦として利用ができる。頂上の円墳部と差殿のある尾の部分の部分を合わせれば、相応の広さになり、また、北側下の駐車場のスペースにも小屋掛けすることが可能で、椎津城にも近く一時的に砦を立てるのには便利な場所と思われる。



具体的に城として、いつ、どのように利用されたかは不明ですが、近くの椎津城をめぐっては、古い時代には里見氏と真里谷武田氏とが、また里見氏と北条氏とが取り合いを行っており、そうした騒乱の時代に、この場所を一時的な城として取り立てられたと思われる。

天羽田 (あもうだ) 神社・寺院・史跡文化財・城址 天照大神・安誠寺(顕本法華宗)

江戸期は、天羽田新田。江戸初期には姉ヶ崎村の枝郷であったと推測される。

地名の由来は、「あも」は「あま」の転訛で、水辺の側の崩壊した丘陵または山となっている。

羽は「埴」の当て字で「羽田」は粘土質の田という意味。

## 天照大神(てんしょうだいじん)

所在地 市原市天羽田1265番地  
創建時期 創建時期は不詳  
祭神 大日靈命  
宮司 海上 建  
由緒・伝説 創建時期不詳。言い伝えによれば、「姉崎神社を勧請した」とされ

天照大神の拝殿建物



ている。境内には寛文12年(1672年)、延宝6年(1678年)と記された板碑が残されており、古くから鎮座をしていたと思われる。社殿は、大正4年に改修再建で、市原市内唯一の明神造りといわれる。境内に三峯神社が祀られている。



境内入口の鳥居と長い石階段



神社の本殿建物



拝殿入口としめ縄

妙遠山 安誠寺 (みょうえんさん あんじょうじ)

顕本法華宗

所在地 市原市天羽田119番地  
 創建時期 不詳  
 本尊 不詳  
 住職 前田 朋則  
 由緒・伝説 江戸時代初期から天羽田地区の中央にあり、住民の信仰の中心とされていた。明治の後期には、青年団の事務所としても利用され、戦後は公民館を併設し地域の住民の活動の拠点となった。本堂は、昭和53年に再建された。

安誠寺の本堂建物



安誠寺境内入口の山門



本堂入口正面と寺名扁額



本堂内部に飾られた祭壇



53年本堂再建の記念碑



境内に祀られる石仏群



日蓮大菩薩・日什大正師の石碑

不入斗 (いりやまず)

神社・寺院・史跡文化財・城址 小鷹神社・熊野神社・

薬王寺・西光院(真義真言宗)・薬王寺浮彫六地藏石幢・木造薬師如来坐像  
 薬王寺の算額・永藤城址・百枚田城址

室町期は不入斗郷、江戸期は不入斗村。

地名の由来は、寺社領などで貢納を命じられた不入権をもつ田地の事で、荘園地名の一種。

小鷹神社 (こたかじんじゃ)

所在地 市原市不入斗189番地  
 創建時期 寿永3年(1182年)に鎮座。  
 祭神 日本武尊  
 神紋 十六弁菊花  
 宮司 海上 健  
 由緒・伝説 旧村社。寿永元年に鎮座。延宝7年(1679年)に再建。景行天皇が東行の際に当地

小鷹神社の拝殿建物



に立ち寄られた。日本武尊が東征の際、軍を数日留められて、その間大高谷やその他の住民が食料を奉った由緒により、氏子は10月15日の祭礼で苞飯を神前に供える習例が。



神社境内入口の鳥居と参道



拝殿入口の上部に扁額



神社本殿（左奥）と拝殿（右前）



拝殿内部に祀られる祭壇



氏子より奉納された手水舎



境内に祀られる浅間神社祠

### 熊野神社（くまのじんじゃ）

所在地 市原市不入斗1402番地  
 創建時期 延長2年（924年）とも言われる。  
 祭神 伊弉諾命・事解之男命・速玉男之命  
 官司 海上 健  
 由緒・伝説 旧村社。創建年代、由緒不詳。  
 境内にある手水鉢には享保19年を記入。  
 愛きょうのある狛犬も鎮座。

熊野神社の本殿建物



境内入口の木製鳥居と参道



三社を祀った社殿



本殿建物の左側



境内の狛犬、右は親子  
 左は手毬を持っている



享保年間の手水鉢



醫王山薬王寺 (いおうさんやくおうじ) 真義真言宗

所在地 市原市不入斗62番地

創建時期 不詳

本尊 不詳

住職 土澤 弘太

由緒・伝説 創建時期不詳。平安時代後期に彫られた木造薬師如来木造(市指定文化財)があり、永く秘仏とされてきたが、1968年に文化財に指定されたことを機に、毎年お釈迦様の誕生日に一般に公開をしている。

また、寛政元年(1789年)10月に、関流石富法門人の鈴木文介俊直が奉納した算額(和算家が数学の難問を解き明かした喜びを、神仏に感謝を込めて奉納した額)があり、現存する算額としては市原市内唯一であり、千葉県内でも最古のものと言われる。奉納者の鈴木文介俊直は、不入斗一帯を開発した大庄屋で、小鷹神社を祭主したという鈴木太良太夫の直系の子孫。市原郡四国八十八か所霊場の47番札所になっている。

薬王寺の本堂建物



境内入口の山門と寺名標柱



本堂内に祀られた祭壇



市指定文化財の案内看板

日光山西光院 (にっこうさんさいこういん) 真義真言宗

所在地 市原市不入斗1406番地

創建時期 延長2年(923年)

本尊 不詳

住職 土澤 弘太

由緒・伝説 開創時期は、延長2年と言われているが、その後一旦鳥有帰し、更に天保3年(1842年)に秀和和上が本堂の再建をした。戦後の農地改革により、寺有財産を失い寺門の経営は困難になってきた。その後三十余年を経て本堂の屋根や内部が荒廃著しくなったので、檀家総代、住職、壇徒の方々の浄財により昭和59年4月に本堂の修復を行った。

西光院には、明智光秀の長男、光慶(十五朗)のお墓がある。光慶は、坂本城落城の際、家臣斎藤利光・利治親子に守られ、フサの方と共に上総に向け脱出したが、利満は江戸の戸塚で捕らえられ殺されたが、フサの方は剃髪して尼姿となり逃亡し助かった。その後、フサと十五朗は西光院に入り、利治は片又木に居を構えた言われている。

(いちはら市民特派員の取材記録より)



昭和59年に修復された本堂



西光院境内入口の山門



西光院の本堂内の祭壇



境内に祀られる墓石や地藏尊

薬王寺浮彫六地藏石幢（やくおうじうきぼりろくじぞうせきどう） 市原市指定文化財

所在地 市原市不入斗60番地

所有者 薬王寺

種類 建造物

説明 この石幢は、高さ1,48mで安山岩製の石幢で、基礎・幢身・笠宝珠が完存しています。六満輪廻から衆生を救済するために建立されたもので、六角柱の各面に6軀の地藏菩薩を浮彫りにし、六道に配しているものです。「寛永廿一甲申年」（1644年）の紀年銘が刻まれ、六地藏としては市内最古のものです。



また、「進道口左工門」や「千髓善右工門」の銘文も見られます。薬王寺への入口の辻瑞に立っている。（いちはらの歴史の旅人の説明文より）

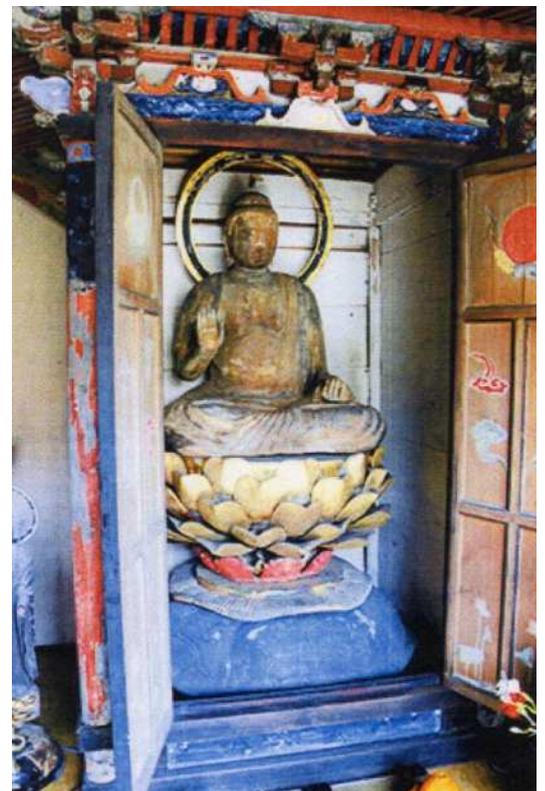
薬王寺薬師如来坐像（やくおうじやくしによらいざぞう） 市原市指定文化財

所在地 市原市不入斗60番地

所有者 薬王寺

種類 彫刻

説明 木造薬師如来坐像は、像高71cmの寄木造り・彫眼で、現在は素地を表しています。全体的に浅めの彫りをはじめ、丸みのある肉どりに、平安時代後期に造られた仏像の技法や特徴が沃表れています。優しい面持ちと姿勢を整えた本像は、永い間にわたって秘仏とされてきましたが、現在は薬王寺の境内にある収蔵庫に安置され、年に一度、春先に御開帳されています。（いちはらの歴史の旅人の説明文より）



葉王寺の算額 (やくおうじのさんがく) 市原市指定文化財

所在地 市原市不入斗60番地

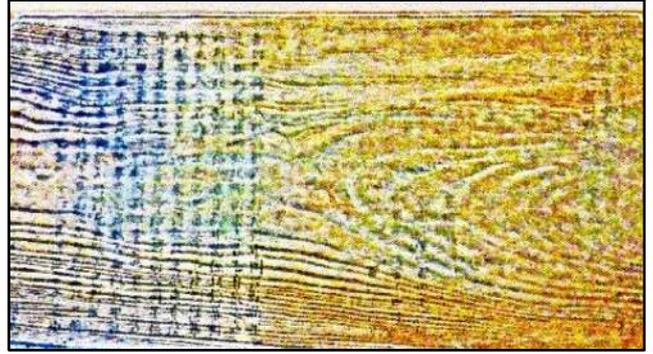
所有者 葉王寺

種類 有形民俗

説明 算額とは、和算家が数学の難問を解き明かした喜びを、神仏に感謝を込めて奉納した額の事です。

この額は、寛政元年(1789年)10月に、鈴木丈介俊直が奉納したもので、

縦41,5cm、横82,3cm、厚さ2,2cmの松の一枚板に数学の問題と図形、及び解き方と答えが書かれています。現存する算額としては市内唯一、かつ県内でも最古のもので、現在は、葉王寺収納庫内に保管をされている。



術曰列鈎加入股得數内減弦余得中圓徑數折半之名甲列股内減甲餘以鈎相乘之名乙自乘之名丙列弦以乙相乘之倍之名丁列中圓徑以鈎相乘之加入丁名戊折半之名己自乘之名庚列弦幕内減鈎幕餘名辛以丙相乘之得數以之減庚余除平方見商數以之減己余以辛除之得商大圓半徑數列甲自乘之名子列鈎内減甲余名丑自乘之名寅列子加入寅得數除平方見商數名卯内減甲餘名辰以甲相乘之得數以丑除見商數名巳列辰以卯相乘之得數以巳除之見商數名午列辰以巳相乘之倍之爲實列巳加入午得數爲法除實得商小圓徑數合問。

寛政元年酉十月吉辰  
関流石富法門人  
鈴木丈介俊直

今有如圖鈎股弦之内容小圓徑與中圓徑及大圓半徑只云者鈎五百八十八寸股二千零一十六寸二千一百寸問大中小各圓徑幾何。

新五百八十八寸

股二千零一十六寸

答曰  
大圓半徑 三百四十三寸  
中圓徑 五百零四寸  
小圓徑 一百二十六寸

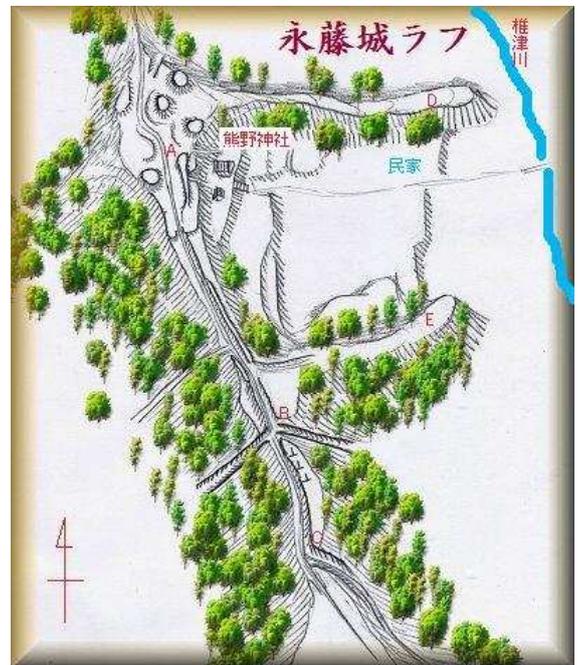
永藤城址 (ながふじじょう)

所在地 市原市不入斗字堀ノ内、堀切、出戸

築城時期 不詳ですが、戦国期より前と思う

築城主 椎津城の砦の一つと思われる。

説明 永藤城は、椎津城の1,5km東南、不入斗と椎津にまたがった比高30mほどの山上にあった。山の麓には西光院という寺院や熊野神社などがある。城址は山林化しているようで、登り道も良くわからなかったが、城址には土塁、空堀、虎口、土橋、井戸などが良く残っているという。しかし、台地上にあるのは古墳群と思われる、土塁と思われたのは古墳で、堀と思われたのは古墳の周溝です。台地は南側に長く延びており、遺構を求めて尾根を南側に進むと、虎口状になっている部分もあったが、



明確なものではなく、城の遺構と判断はできない。さらに進んでゆくと、Bの部分の尾根の両側には堅掘状の切り通しがあり、両側に下りてゆく通路となっています。またその先のCの部分には、堀切と思われる切込みが尾根に入れられている。これは、下から登ってくる山道を加工した際に生じたものですが、尾根を断ち切るほどの堀切にはなっていない。永藤城は、戦国期よりも古い時代の椎津城の砦ではないかと思われる。

**百枚田城址** (ひやくまいだじょう)

**所在地** 市原市不入斗字百枚田

**築城時期** 不詳

**築城主** 永藤城に関連した人か

**説明** 百枚田城は、永藤城のすぐ300mほど東南にある。有秋中学校の背後に比高30mほどの独立台地の上が城址と言われている。城址には土塁、空堀、虎口などが残されているという。

この城の歴史については明らかではないが、永藤城と極めて近い所にあることから、永藤城の出城と思われる。



**片又木** (かたまたぎ) 神社・寺院・史跡文化財・城址 十二社神社・法蓮寺(真義真言宗)

江戸期は片又木村。慶應4年(1868年)の戊辰戦争の際には当村は幕府軍の真里谷方面への敗走にあたり、字日和ヶ谷の山中から幕府軍敗走兵の打ち捨てたものと思われる雨覆付小長持・毛氈・菰包などが発見された。

地名の由来は、「かた(肩)・また(岐)・き(処)」で、台地の端の谷が二つに分かれている地という意味。

**十二社神社** (じゅうにしゃじんじゃ)

**所在地** 市原市片又木317番地

**創建時期** 延喜年間(901年~923年)創建

**祭神** 伊弉册命

**宮司** 海上 健

**由緒・伝説** 旧村社。北拝。言い伝えによれば、名称の語源は天神7代・地神5代の十二神を御同座されたことによる。延喜年間の勧請と言われる。

境内に浅間神社(木花開耶姫命:石祠)がある。毎年2月15日に、奉射の神事がある

十二社神社の拝殿建物



十二社神社境内入口の鳥居と階段



右奥の本殿と繋ぎの幣殿



拝殿の正面建物としめ縄



境内に祀られる浅間神社鳥居



氏子より奉納された手水鉢



神社の守り神の狛犬の石像

延命山法蓮寺 (えんめいさんほうれんじ) 真義真言宗

所在地 市原市片又木169番地

創建時期 聖武天皇の頃と言われる。

本尊 不詳

住職 土持 弘太

由緒・伝説 聖武天皇の頃に開創されたと言われる。

大正12年の震災で本堂などが被災したが、再建された。昭和52年に本堂を改修した。市原郡四国八十八か所霊場48番札所。明治6年から22年まで、片又木尋常小学校として本堂が使われた。

法蓮寺の本堂建物



法蓮寺境内入口の山門



法蓮寺本堂正面と寺名扁額



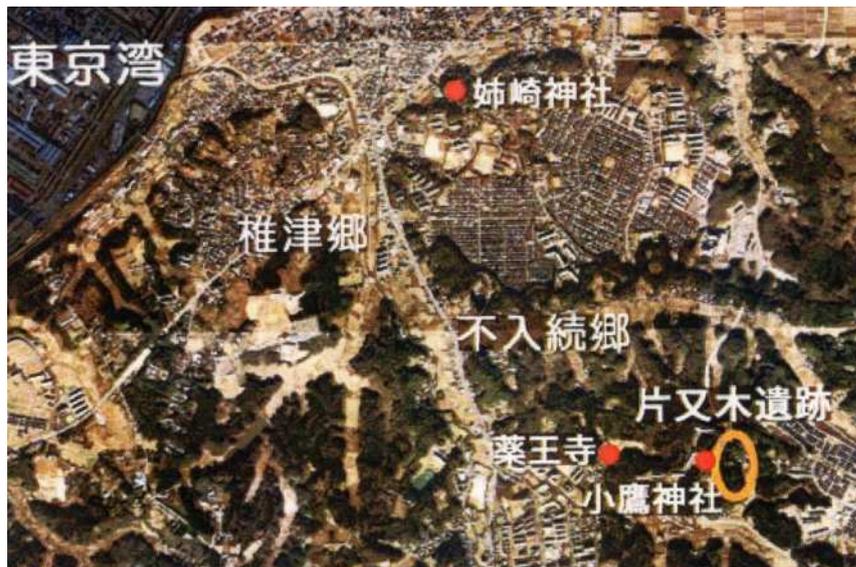
境内に祀られる石仏

中世の片又木遺跡

片又木遺跡は、養老川下流域左岸、標高約56mの洪積台地上に立地しています。一帯は、不入斗川や立野川に挟まれた比較的急峻な山稜が奥深く続き、中世前期においては開発地の再奥の面したものと思われる。

2003年冬に遺跡の一角から中世前期の大規模な居館跡が見つかりました。発掘調査の結果鎌倉時代の寺社遺跡と思われる。

発掘された資料から直接関連する文



献資料等はありませんが、伝承はいくつか残っています。この地域に近いものでは「小鷹神社（祭祀は日本武尊）」は、この付近一帯を開発した「鈴木太良太夫」が守護神として奉祀し、自ら祭主を務めたと言われています。寿永3年（1182年）には改めて現在地に鎮祀し、村の鎮守産土神なると伝えられています。また、この遺跡の南側に臨む立野川筋の道沿いには、源頼朝の通過伝承があり、鎌倉街道推定ルートに接続して、今回見つけた大規模建築群と国衙を繋いでいた可能性が高いと言われます。さらにこの道沿いには、遺跡から約500m西に建つ薬王寺には、平安時代後期の木造薬師如来像が安置されており、市の文化財に指定されています。そしてこの仏像は、遺跡に接した「大高谷」から移動したと伝承されている。出土遺跡群と矛盾のない治承・寿永期の伝承が多いことは、大変興味深い感じをします。



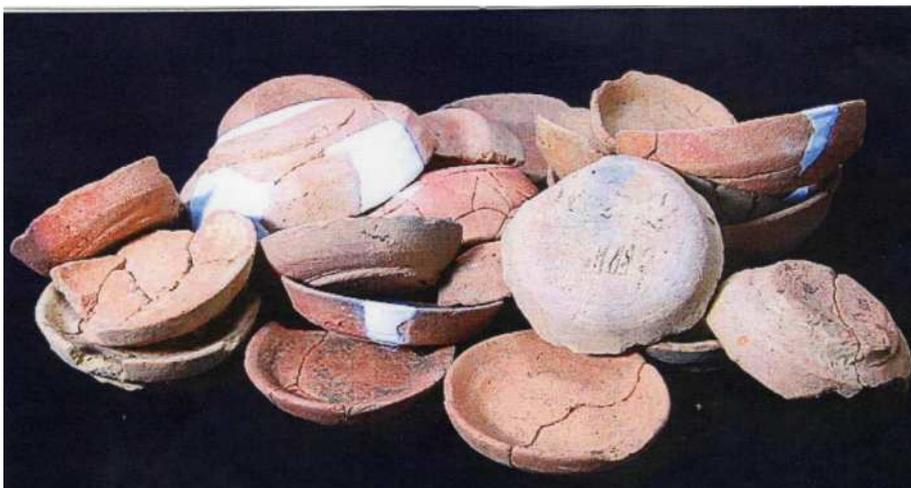
切り土整地部より掘立柱建物跡が発見



旧表土の上に盛土をして区切られた



中国で製造されたものを利用していたと思われる青磁・白磁・青白磁などの出土品



遺跡から出土したカワラケ

椎津 (しいづ) 神社・寺院・史跡文化財・城址 八坂神社・稲荷神社・金剛寺(真言宗智山派)

霊光寺(信貴山真言宗) 瑞安寺(浄土宗)・行田寺(顕本法華宗)・椎津城址

南北朝期は椎津郷、江戸期は椎津村。慶應4年(1884年)の戊辰戦争では当村付近が戦場となり、戦死者は2名、瑞安志寺には戊辰戦争の際、藩命に背き官軍と戦って死んだ鶴牧藩士5名の墓もある。

地名の由来は「しい(浸食地形)・つ(港)」の転訛で、降雨による浸食地にある港という意味。

### 八坂神社 (やさかじんじゃ)

所在地 市原市椎津230番地1

創建時期 崇神天皇の時代(68年)という。

祭神 建速須佐之男命

神紋 右三つ巴・八坂守

宮司 山北 央風

由緒・伝説 旧指定村社。元は祇園牛頭天王と呼んだ。

崇神天皇の時代(西暦68年)に鎮座という。

初め城山(須賀山)にあり須賀宮(または稲田の宮)と名付け、その後現在地に遷座した。

日本武尊が東征の際、東夷鎮撫の祈願をしたと伝わる。正徳4年(1714年)に社殿を改めて造営。境内に阿夫利神社(大日武命:石祠)・菅原神社(菅原道真:石祠)・三峯神社(伊弉諾命:石祠)・稲荷神社(倉稻魂命:石祠)・若木神社(塞神三柱命:石祠)・栗島神社(少彦名命:石祠)がある。

毎年7月23日の種蒔き神事では、天狗の面をつけた人が種を蒔く。

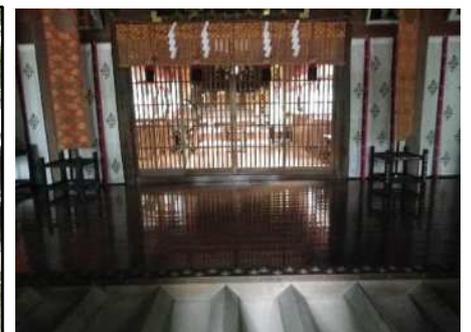
椎津八坂神社の本殿建物



八坂神社境内入口の階段と鳥居



本殿の建物と塀柵



本殿の内部に祀られた祭壇



祇園牛頭天王の祇園の扁額



境内に祀られる神々の石祠



氏子より奉納された手水舎

椎津山谷稲荷神社 (いなりじんじゃ)

所在地 市原市椎津2412番地  
 創建時期 不詳  
 祭神 倉稻魂命  
 宮司 山北 央風  
 由緒・伝説 創建年代、由緒等不詳

山谷稲荷神社の拝殿建物



境内入口の鳥居と石段の参道



山谷稲荷神社本殿の建物



拝殿正面入口と神社名の扁額

霊光山桂林院瑞安寺 (れいこうさんけいりんずいあんじ) 浄土宗

所在地 市原市椎津131番地1  
 創建時期 慶長元年(1596年)に開基。  
 本尊 不詳  
 住職 秋本 慧耕  
 由緒・伝説 瑞安寺は、寂漣社照譽上人秀雲大和尚により慶長元年に開山したと言います。和尚は、鎌倉の人で、姓を加藤氏という。江戸末期の文政10年より、徳川譜代の家臣であった水野家が鶴牧藩主となり、三代・45年にわたり在封期間を通じてその菩提寺となっていた関係上、幕末戊申の役の災禍を受け、過去帳や旧記等の大方を焼失したという。その為、詳細については不明。

瑞安寺の本堂建物



瑞安寺の境内入口の山門



瑞安寺本堂入口と霊光山扁額



境内に祀られる石仏群



戊辰戦争の鶴牧藩士の供養



境内に祀られる地藏様

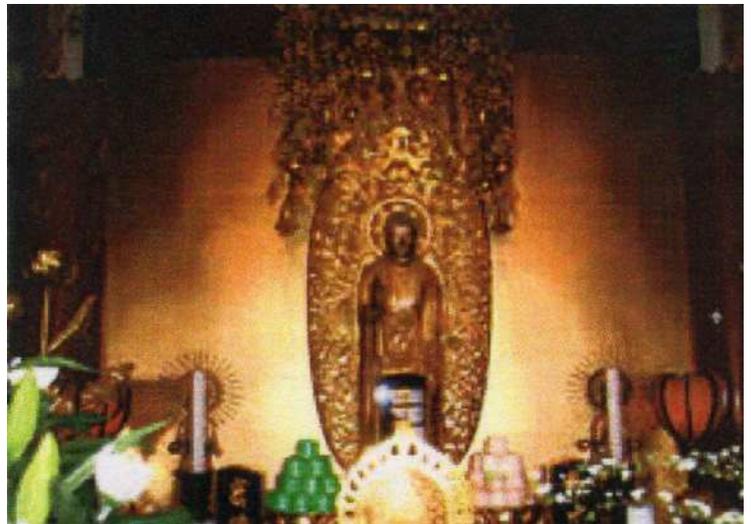


文殊菩薩像が安置の文殊堂

### 瑞安寺所蔵の金剛界阿羅波左曩五文字文殊菩薩像と文殊堂について

文殊菩薩像の造像記年は不明ですが、寄木造りであることやお姿の優雅な作風から推測し、平安期後期に寄木彫りを創始した巨匠・定朝の流れを継ぐものであろうと言われる。寺伝によれば、正徳3年3月、椎津浦の漁夫の五郎左衛門が、先祖の霊夢を感じて出漁した処、海上遙に金色燦然と光明を放つものがあり、近寄ってみると、五髪に理路を戴き、左手に経巻を、右手に金剛劔を携え、獅子王座の蓮華にお立ちになられた御丈・7尺3寸の文殊菩薩像であったので、驚き怪しんで添々しく船中に奉じ、菩薩寺の瑞安寺に安置申し上げることになった。当寺の16世浄譽上人は、直ちに浄財を勧募して境内に3間四面の文殊堂を建立し、毎月25日の縁日に御開帳を始めたという。しかし、お堂も歳月と共に老朽化し、それに昭和10年の道路拡幅改修工事に際してこのお堂を取り壊されたので、尊像を本堂に移し保管をした。

戦後の昭和44年にようやく再建の悲願が実り、檀信徒の協力により尊像修復と徳教啓発道場としての堂宇を再建した。現在は、家庭円満・学業成就・進学祈願の海中出現知恵の文殊菩薩として参拝者が多い。



### 「空茶毘（カラダミ）供養」の行事 県指定民族文化財

カラダミ供養の行事の伝承では、その昔、郡雄割拠の戦国時代に椎津城主・小太郎義昌は、善政を布いて領民に慕われていたが、敵対する北条氏康の軍勢に攻められてあえなく落城し、城主は自刃したとも脱出したとも言われ、亡骸は発見することは出来なかった。無き殿を慕う領民たちは、せめて心だけの葬儀をと、涙しながら空の棺に茶毘に付してひそかに葬儀を出して冥福を祈ったという。これが「空茶毘供養」の始まりだと伝承されています。



孟蘭盆8月15日、朝から境内に集まってきた大勢の若者たちは、大きな台車の上に馬簾を下げ、義昌公

の人形を祀り、空の棺を載せ、新盆の各家から集めた盆提灯を飾り付け、手造りの万燈を仕立てる。午後7時頃、本堂前の祭壇で義昌公はじめ今日までの戦没者供養を修し、万燈に一齐に灯が点つと、若者連や大勢の子供たちの掛け声とともに、にぎやかな行列となって城跡まで繰進み、城跡に着くと飾り付けた馬簾が外される。見物の人々は我先にと、この馬簾を奪い合い、各家の門口に立てて一年間の息災を祈られる。一方、若者たちは、代表一人を棺に入れ、鳴き声をあげて棺を担ぎ、ドンドン叩きながら一目散に瑞安寺に向かい、境内でグルグル回った後、墓地に棺を安置する。そこで、子供たちや見物の人々は御霊に参り、五穀豊穰・家内安全を願いつつ、若者から果物の施しを受けて帰途に着くのです。人々の去ったあとの境内は、夏の宵間に無数の口ウソクの灯りが揺らめき香煙が漂って、素朴で永い伝統ある行事の後の夜が静かに更けてゆくという。

椎津城址・正法山砦（しいづじょう・しょうぼうさんとりで） 県指定文化財

所在地 市原市椎津字城山・要害台・五霊台

築城時期 元応から元徳年間説（1325年頃）と応仁年間説（1467年頃）・明応年間（1492年頃）の3説がある

築城主 椎名胤仲（椎名三郎）と三浦定勝・房総武田氏の3説がある。

説明 椎津城はいずれの説にしても、康正2年（1456年）に甲斐武田氏の一族、武田信長（房総武田し・真里谷氏の祖）が上総に上陸し、木更津市の真里谷城に本拠を構えてから、上総一体に勢力を拡大し、椎津も武田氏の勢力下に入ったと言われる。

椎津城は、八坂神社の裏手の比高20mほどの台地上にあり、主郭部はその遺構を良くとどめている。南北朝時代に三浦氏によって築かれたのが最初だという



が、その後、千葉氏、武田氏と城主は代わり、永正16年の戦い・天文3年の戦い・天文21年の戦い・永禄7年の戦い・天正18年の戦いなど、何度か激戦の舞台となっている。

天文21年の戦いでは、天文20年11月4日、下総への進出を図る里見義堯・義弘は、正木氏・土岐氏を先鋒として、椎津城に攻め寄せた。城主真里谷信政は北条氏の援軍を得て、城外に押し出して決戦に臨んだが大敗し、城内に戻って自刃したという。

1郭部は一応残されていますが、戦国末期まで使われた城としては、あまり目立った遺構が見られない。郭は段々となっており、虎口も技巧的なものは見られないので、かつて拠点的な城郭であったことは想像しにくい。主郭北端に低い土塁に囲まれた方15mほどの区画があり、これを「柵形状遺構」という。しかし、ここには神社が祀られており、それによるものとも考えられる。1郭と腰曲輪群の南側には幅15mほどの窪地があり、その南側に畑となっている2郭がある。現状で最も戦闘的な遺構と言えるのが1の堀と思われる。この堀底は、西側に延びて、西の腰曲輪にそのまま接続している。この腰曲輪の端には土塁の残りらしいものが見られる。その下は10mほどの断崖となっており、要害的な地形であったと思われる。

2の畑の南側に2の堀があったと思われる。さらに南側の五霊台の南端の台地基部にも、発掘調査によりかつて幅24mにもわたる堀が存在していたことが確認された。

このように椎津城は、北側に突き出した台地を直線連動的に掘り切った城郭であったと思う。

立野 (たての) 神社・寺院・史跡文化財・城址 大国主神社・

江戸期は立野村。地内に鎌倉街道が残り、旧家切替家に源頼朝が宿泊したという伝説がある。この切替氏は明治7年頃(1874年)から村民を奨励し、字谷(やつ)所在の山林を開墾した。

地名の由来は「たて(台地)の(野)」で、小台地という意味。

大国主神社 (おおくにぬしじんじゃ)

所在地 市原市立野12番地

創建時期 治承4年(1180年)

祭神 大国主命

神紋 五七桐

宮司 海上 健

由緒・伝説 旧村社。治承4年に源頼朝が立野村の

豪族・長右エ門の家に留まっていた際、小祠を

字谷(あざやつ)の高台に奉斎し傷病将兵の平癒を祈ったと伝えられる。また、当地で旗

竿を切り替えたと言われ、長右エ門及び村人に切替姓を与えたと言われる。

大国主神社の拝殿建物



道路から境内入口の朱色鳥居



本殿前に祀られる第二鳥居



拝殿の右側写真



本殿内奥に祀られた祭壇



境内に祀られる小社



神社本殿の左側を写す

豊成 (とよなり) 神社・寺院・史跡文化財・城址 八幡神社・不動院(真義真言宗)

南北朝期は豊成郷。江戸期は豊成村。不入斗より分村したと言われるが未詳。

地名の由来は、「とよ(水路)・なり(緩傾斜地)で、水路のある緩い傾斜地という意味。

豊成八幡神社 (とよなりはちまんじんじゃ)

所在地 市原市豊成459番地

創建時期 不詳

祭神 誉田別命

宮司 海上 健

由緒・伝説 旧村社。創建年代、由緒等不詳。

八幡神社の本殿建物



境内に琴平神社（大国主命）がある。



神社境内の入口の鳥居と石段



豊成八幡神社と書かれた扁額



神社本殿内に祀られた祭壇

明王山不動院 （めいおうさんふどういん） 真義真言宗

所在地 市原市豊成15番地

創建時期 不詳

本尊 不詳

住職 土澤 弘太

由緒・伝説 創建時期不詳。鶴幕藩主水野氏ゆかりの寺院

市原四国八十八か所霊場の46番札所。  
境内の不動堂には、不動明王像が安置されている

不動院の本堂建物



寺院境内入口の寺名の山門



本堂正面と不動院の扁額



寺院境内に祀られる石仏像



不動明王像を安置している堂宇



不動堂の入口と扁額



不動堂内に飾られた祭壇

畑木 (はたき) 神社・寺院・史跡文化財・城址 畑木神社・医王寺(真言宗豊山派)

医王寺石造宝篋印塔・畑木城址

江戸期は畑木村。慶應4年(1868年)の戊辰戦争(上総七日戦争)では、当村近隣は戦場と化した。当村の戦死者は5名あった。

地名の由来は、過去に氾濫した河川が運んできた土砂の畑地という意味。

畑木神社 (はたきじんじゃ)

所在地 市原市畑木456番地

創建時期 景行天皇40年(114年)頃  
と思われる。

祭神 国狭槌尊

官司 海上 健

由緒・伝説 日本武尊が東征の際、祭祀した霊跡と伝承される。現在グーグルマップでは畑木春日神社と表記されており、春日神社が合祀されたと思われる。

夏と秋に祭禮があり6月初午日に神輿渡御。境内に大杉神社(大物主命)・子安神社(木花開耶姫命)・日枝神社(大山咋命)・浅間神社(太祖三神)・木花佐久夜比咩命)神武天皇遥拝所(明治年新築)が祀られている。

畑木神社の本殿建物



畑木神社境内入口の参道と鳥居



境内の狛犬と燈籠、奥に本殿



入口上部の畑木神社の社名の扁額

金座山小松院医王寺 (きんざさんこまついんいおうじ) 真言宗豊山派

所在地 市原市畑木418番地

創建時期 正元元年(1259年)

本尊 不詳

住職 廣瀬 秀明

由緒・伝説 正元年中の草創で、北条時政五代の子孫・平時頼の建立。彼は、平家の小松大夫平重盛の供養の為に全国66ヶ国に一国一字の伽藍建立を命じた。

医王寺もその一つで、鎌倉の法師恵覚に重盛

篤信の薬師如来、愛宕の権現一体、仏舎利一粒、不動明王等を預けて開基を依頼。

法師が神仏を携えて上総を旅していたところ、不思議な老人が現れ「伽藍建立はこの地がふさわしい。汝と共に守護をしよう。吾は無音里金剛なり」と言って虚空に飛び去った。

医王寺の本堂建物



この出来事から山号を「金座山」とし、重盛の菩提寺であることから「小松院」とし、薬師如来を安置の為「医王寺」と名付けたという。



医王寺境内入口の山門



医王寺本堂の正面と扁額



医王寺本堂内な祀られた祭壇



境内左側に祀られる地藏と墓石



山門右側に建つ霊場札所の石碑



境内に祀られる観世音菩薩像

### 医王寺石像宝篋印塔 (市原市指定文化財)

所在地 市原市畑木421番地1

製造時期 南北朝前半期

所有者 医王寺

種類 建造物

説明 復元高さは1,64mで、安山岩製の関東式宝篋印塔です。反花座・基礎・塔身(後補)・笠・相輪(宝珠欠失)からなり、二重複弁の反花座の内部には、奉籠孔が穿たれている。笠の柄(ほぞ)穴や全体的に太めで短い相輪などに古式の特徴を示しており、建造年代は将門塔や常住寺の宝篋印塔よりも遡ると見られ、南北朝の前半期と考えられる。

※ちはら歴史の旅人の説明文引用



医王寺の墓地に建つ宝篋印塔



宝篋印塔の右側面



宝篋印塔の指定文化財の説明

畑木城跡 (はたきじょう)

所在地 市原市畑木字要害山

築城時期 不詳

築城主 椎津城の関係者と思われる

説明 畑木城は姉崎高校のすぐ東にある比高20mほどの独立台地にあった。

この山は「有害山」と呼ばれているが、「有害」は「要害」の事と思われる。その為、畑木城は「要害山城」とも呼ばれ「椎津城」の出城で、連絡道があったと言われている。

城の形態については、なんとも理解しにくいですが、台地先端部辺りは、かなり広い畑地となっていて、ここが主郭部と思われる。土塁や堀切と言った遺構はなくなっている。

台地東側の数段の腰曲輪は城郭に伴うものと思われるが、畑地の跡とも考えられる。

「市原の城」の図を見ると、北西端に枡形の深い窪みが描かれていて、その付近に1本の土塁があった。そして1郭の東側下の墓地の手前に、枡形状の窪みAがあるのを確認した。

畑木城は、戦国時代のある時期には城として用いられていたと思われるが、形態的にはかなり古風な城と思われる。



深城 (ふかしろ) 神社・寺院・史跡文化財・城址 熊野神社・無量寿寺 (真義真言宗)

明治4年(1871年)に起立。もと不入斗村枝郷。源頼朝の関兵地跡と伝わる「御覧塚」、江戸期の深城供養塚がある。地名の由来は「ふけ(泓)・しろ(場所)」の転訛で、湿地という意味。

熊野神社 (くまのじんじゃ)

所在地 市原市深城554番地

創建時期 不詳ですが、平安期初期か。

祭神 速玉男之命・伊弉諾尊・事解之男命

宮司 海上 健

由緒・伝説 旧村社。坂田田村麻呂の孫・鈴木四郎兵衛直重が、三社のご神体を守護しながら紀州に来て、田村麻呂が射止めた兜の星を添え勧請したという。

毎月正月三日は追儼の儀式があり拝殿を叩

いて悪鬼厄災を払い氏子に守り札を渡す。また赤土を掘り参詣者の額に指で押し付け守りの印とする習わしがある。

大正4年(1915年)に琴平神社(字志保知:大物主命)と境内社の日枝神社(大山咋命)を合祀。境内に子安神社(木花開耶姫命:石祠)・疱瘡神社(塞神三柱命:石祠)が祀られている。

熊野神社の拝殿の建物





境内入口の鳥居と長い参道石段



拝殿入口としめ縄



本殿（右奥）と繋ぎの幣殿



入口右側に鎮座する狛犬



境内に奉納された手水鉢



境内に帝釈天と三猿の庚申塔

深城山真雄院上之坊無量寿寺（ふかしろさんしんゆういんかみのぼうむりょうじゅじ） 真義真言宗

所在地 市原市深城564番地  
 創建時期 明和4年（1767年）  
 本尊 不詳  
 住職 土澤 弘太  
 由緒・伝説 江戸中期の明和4年に開山された。  
 本堂内に毘沙門天と地蔵菩薩像が  
 安置されている。市原郡四国八十八  
 か所霊場56番札所となっている。

無量寿寺の本堂建物



境内入口の石段登ると山門



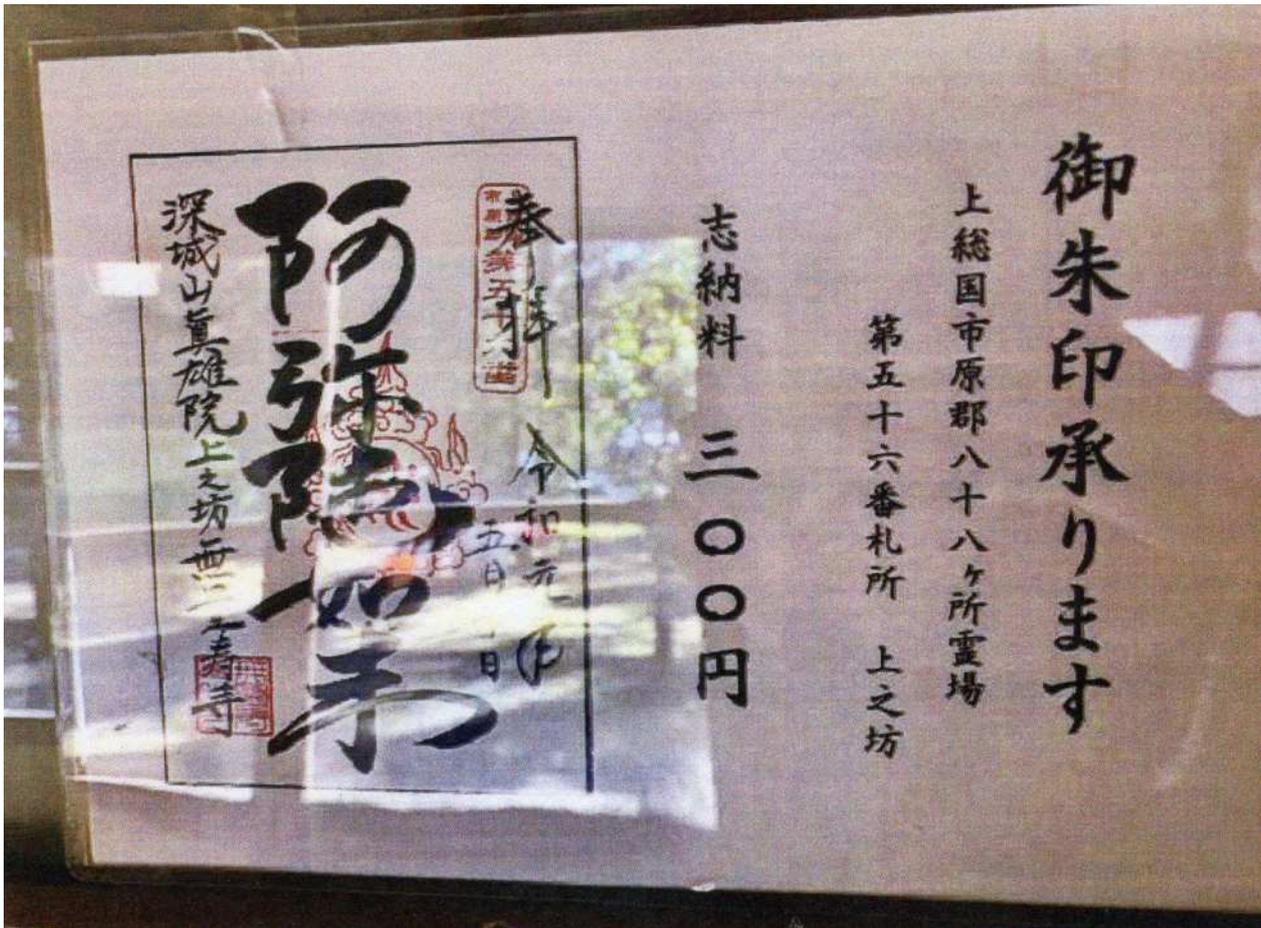
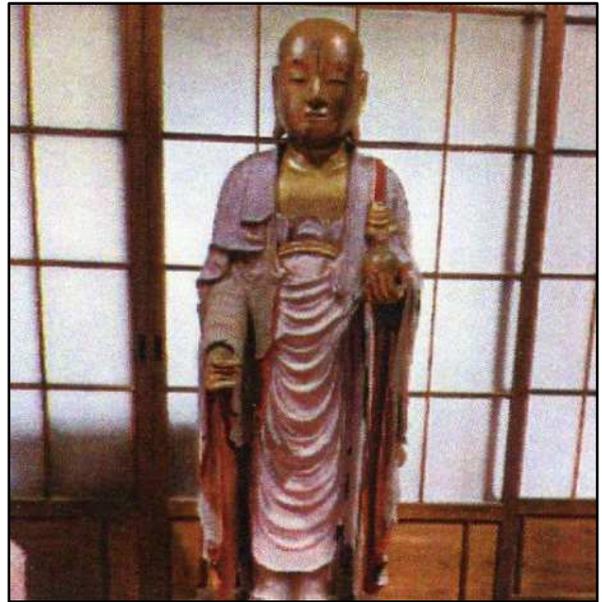
本堂の正面入口



境内に祀られる宝篋印塔



右側の仏像は、地蔵菩薩様（修復予定）  
左側の仏像は、毘沙門天様（修復済み）



迎田（むかいだ） 神社・寺院・史跡文化財・城址 大宮神社・

明治4年（1871年）に起立。向田村とも書く。江戸期には不入斗村の枝郷だったが、明治4年に分村した。地名の由来は、「むけ（剥す）・た（処）」の転訛で、崩壊地形を指す。

大宮神社（おおみやじんじゃ）

所在地 市原市迎田116番地

創建時期 不詳

祭神 国常立命

官司 海上 健

由緒・伝説 創建時期・由緒等不詳

大宮神社の本殿建物



境内入口の石段と鳥居



本殿入口と上部に奉納者連名額



神武天皇を祀った石碑

本資料は、次の資料を参考に作成しました。

- ・市原市埋蔵文化財センター遺跡ファイル
- ・ちょっと便利帳（日本の元号・年代早見表）
- ・全国遺跡報告総覧
- ・日本の城郭・城址（千葉県版）
- ・寺社にまつわる伝説（市原市 その2）
- ・市原市・宗教法人一覧
- ・市原の城郭と国府跡をたずねて
- ・Wikipedia- 市原郡
- ・市原市歴史と文化財シリーズ・いちほら歴史の旅人
- ・そのほかに、紹介した寺院・神社の関係者の方々の協力を頂きました。

## 姉崎地区の地名の由来と史跡文化財

発行・編集 市原の歴史を知る会

住所 市原市能満1020番地1

連絡先 090-3545-1113

本資料をコピーする場合は、**ふるれんネットのいちまる館**をご利用下さい。